

北九州市立大学学位授与式学長告辞

皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

そして、今日まで、卒業する皆さんの勉学と生活を支えてこられたご家族をはじめ、関係者の方々のお慶びも如何ばかりかと思えます。心よりお祝い申し上げます。

学位授与式の冒頭に当たり、1月1日に発生した令和6年能登半島地震により犠牲になられた多くの方々に対し、哀悼の意を表するとともに、被災者の方々へ心よりお見舞い申し上げます。本学においても、被災した地域からの学生が在籍しており、新入生も迎えております。

本学は高等教育の場であるという自覚のもと、この大地震によって未来を担う若者の教育に滞りがあってはならないとの思いで、全学をあげて修学の支援を行います。

さて、学士過程を終え、学士の学位を授与されるのは1,322名、博士前期課程を修了され修士の学位を授与されるのは128名、博士後期課程を修了され博士の学位を授与されるのは12名です。

本学は教育課程において、豊かで高度な「知識」、知識を活用できる「技能」、次代を切り開く「思考・判断・表現力」、組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」、高い倫理観に基づく「自立的行動力」を涵養するプログラムの提供をおこなってまいりました。これらの力が、入学時よりも高まっていることと思いません。

本学は学びや経験のすばらしい「場」を提供してまいりましたが、ここで過ごした時間は、充実したものになったでしょうか。思うように活動した人もおれば、まだ物足りない人もいるかもしれません。それに基づき、次のステージに意気揚々と気持ちがかう人もおれば、足元が固まらないまま向かう人もいるかもしれません。しかし、大学で過ごした時間は決して意味のないものではなく、年を重ねた節目で、そのすべての時間を俯瞰した時に、初めて意味のあるものとして、立ち現れてくるものではないでしょうか。学生時代を首尾よく終えた方も、何かと手間がかかった方も、キャンパス内外での学習や経験が将来にわたって生きてくることを願っております。

純文学を対象とする芥川賞を、若くして受賞した平野啓一郎氏は、青春の多感な時期を北九州市で過ごしました。著作『マチネの終わりに』は、リーマンショック、グローバル리즘とテロ、東日本大震災など現代社会の出来事を背景に、主人公

たちが互いに敬愛しあう恋愛模様を格調高く、音楽の調べに乗せて紡ぎあげていきます。平野氏はその中で、主人公の天才ギタリスト・蒔野（まきの）聡史にこう語らせています。

「人は変えられるのは未来だけだと思ひ込んでいる。だけど、実際は、未来は常に過去を変えてるんです。変えられるとも言えるし、変わってしまうともいえる。

過去は、それくらい繊細で、感じやすいものじゃないですか？」 年を重ね、人生の途上で過去を振り返るとき、過去の学びや経験の意味が、その時の自分との繋がりで意味を変えてくるのではないだろうか。

アマルティア・センは、アジアで初めてノーベル経済学賞を受賞しました。幼少であった1943年に200万人とも、300万人とも言われる犠牲を出した、悲惨なインド・ベンガル飢饉を経験しました。その時、飢饉の再発を防ぐ努力をしようとして決意したことが、研究生生活の原点となりました。教師の一人にその決意を伝えると、飢饉の撲滅はほぼ不可能だと言われたそうです。その後センは発奮して、経済学者として飢饉を防ぐ経済分析を始め、厚生経済学や社会選択理論における牽引者となりました。もし、教師との会話で諦めていたら研究はストップし、彼の決意は忘却の彼方に消え失せていたでしょう。しかし、その出来事は、セン少年の脳裏に深く刻まれ、'60年代に本格的な研究を開始した時、「私はその落胆させられた会

話を思い出していた」と、後に語りました。10歳での一瞬の会話は、とても重要なものとして、彼の人生の中で深く反芻されていったのです。

時に自省することは、思考を深めることにとって大変重要なことです。良かれと思った取り組みでも、場合によってはうまく事が運ばない時があるかもしれません。しかしそれは隠された意味があるかもしれません。事がうまくいったとしても、長い人生のスパンでその意味を問うていくことが必要だと思えます。そしてそれら全てのこと自分の置かれた立場を客観視することにつながり、「時代を読む力」を育成していくことになるはずです。皆さんには、是非この「時代を読む力」をこれからも育んでいただきたいと思えます。

迷うときは是非、北九州市立大学で学んだ事柄に立ち返っていただくとともに、過去の自分と対話し、先輩や同僚の知恵を借りながら、あたらしい局面を切り開いていただきたいと思えます。それはあたかも、アイザック・ニュートンがかつて記したように、経験者や先駆者である「巨人の肩に乗って」、行く末を遠くまで見通すことに似ています。そうした結果、遠い将来に、やはり北九州市立大学で多くを学んで良かったと思える日々が来ることを、我々教職員は希望しております。

北九州市立大学は皆さんの学生時代を真摯にサポートしてまいりましたが、皆さんの卒業後も折に触れ支援することに向き合っていきます。是非、大学での活動や思い出を胸に秘めながら、ご活躍されることを期待いたします。

二〇二四年三月二十五日

北九州市立大学学長 柳井 雅人